

令和6年度福島県農業総合センター農業短期大学校学校評価表

重点 目標	現状と課題	評価項目	主担当	具体的方策及び評価指標	自己評価		
					経過・達成状況	評価	次年度の課題と改善方策
Ⅱ 質の 高い 実践 的教 育の 提供 と学 習環 境の 充実	<p>【視点1】 農業を取り巻く環境は時代の進展とともに急速に変化し、また、学生の農業に対する意識や捉え方、農業分野における進路選択の幅も多岐にわたり、多様化が進んでいる。 しかし、農業の担い手として身に付けさせるべき基礎・基本は着実に習得させるとともに、各農業分野における諸課題に即戦力として対応できるよう質の高い先進的な教育を実践していく必要がある。 そのためには、指導に当たる教職員の指導力の向上はもちろん、施設・設備を含む教育環境の充実に取り組むことも重要である。</p>	(1) 教育内容の充実	教育計画検討委員会	① 次年度に向けた新カリキュラムを完成させる 社会の要請や学生の実態に応じた、教育内容の弾力的な改善を図る。 〔目 標〕 ○すべての科目について、履修学年、開講時期、担当講師等を見直し、教育の改善・充実に図り、カリキュラムを完成させる。			
			教育計画検討委員会	② 学校アンケートに基づいた講義内容の改善 講義演習、実験、実習への理解度、満足度をアンケートにより把握し内容の改善に努める。			
		(2) 各種免許、資格取得の推進	資格対策委員会	① 合格率向上を目指した資格指導の実施 指導内容の充実に努めるとともに、学生の知識・技術の定着状況に応じて、補講等の支援を随時実施する。また、農業の担い手として有用な資格を検討し受験につなげる。 〔目標合格率〕※()は前年度 ○大型特殊免許取得率 : 95% (94.1%) ○けん引免許取得率 : 95% (92.9%) ○毒物劇物取扱者 : 30% (16.7%) ○簿記取得率 : 40% (27.3%) ○人工授精師免許 : 100% (100%)			

令和6年度福島県農業総合センター農業短期大学校学校評価表

重点目標	現状と課題	評価項目	主担当	具体的方策及び評価指標	自己評価		
					経過・達成状況	評価	次年度の課題と改善方策
	<p>【視点2】 農業高校出身の学生は毎年一定程度入校しているが、近年は他校種、また、非農家出身の学生が多く、入学時の農業に関する知識や技術に大きな格差が見られるのが実情である。</p> <p>このため、1学年では早期の段階から学生個々の能力に応じた指導により、農業の基礎・基本の着実な定着を図る必要がある。さらに、2学年においてはより高度な教育を展開し、専門的な知識と技術を習得させ、農業における課題解決能力や実践力を身に付けさせる必要がある。</p>	(3) 学生の主体的な取組によるGAP等の定着	GAP推進運営委員会	<p>① GAPを実践できる人材育成 〔GAP学習〕8回 ○基礎講座:2回 ○実践学習:2回 ○演習(リスク評価):2回 ○模擬審査:1回 ○研修会の開催:1回 ○GAP審査の受検</p> <p>〔GAP活動〕 ○学生のJGAP指導員資格取得 ○三重農業大学校GAP交流</p>			
				<p>② 農場運営を通じたGAPの実践 ○定期的な農場評価の実施 ○自己点検と見直しの実施:1回/年以上 ○学生による帳票類の記帳</p>			
		(4) スマート農業の推進	スマート農業推進委員会	<p>① 講義や実習の導入 ○ICTの基本及スマート農業に関する講座実習:1回 ○先進地事例調査及び研修:1回 ○分娩監視システムの活用による分娩管理実習:9回 ○スマートアシストの実践</p>			
				<p>② 研修による技術習得 技術習得のため、外部講師等を積極的に活用しながら研修会を開催する。</p> <p>〔実績〕 ○外部講師による研修会実施 ○施設利用による研修会の受入 ○職員研修の実施</p>			

令和6年度福島県農業総合センター農業短期大学校学校評価表

重点目標	現状と課題	評価項目	主担当	具体的方策及び評価指標	自己評価			
					経過・達成状況	評価	次年度の課題と改善方策	
	【視点3】 学校や寮生活等の集団生活の中で培われる規範意識は、卒業後の社会生活において重要となる。これは、同じ志を持つ仲間とのつながりを大切にする心の教育であり、社会生活の中で他者と協調する力にもなる。 農業経営力の育成には、知識や経験も必要であるが、その他に社会の一員として必要なコミュニケーション力も重要である。販売実習や卒業論文の作成、発表等、様々な人達との交流や他者の意見や考えに触れ、それを尊重することが個人の資質を高める活動となる。 農業経営力の養成には、良い農業人（産業人）の育成という共通理解のもと、適切に学生指導にあたり、学生にとって望ましい成長を支援していく必要がある。	(5) 農業経営力の育成	直売実習 実施委員会 各経営学科	① 販売実習によるコミュニケーション力の養成 農業経営者（社会人）として必要とされる能力（社会性・指導性）を養成する。 【目標】 ○品目別販売計画の作成 ○農産物直売施設（7か所）の有効活用 ○「直売実習」開催：年6回 ○関係機関が企画するイベント等への出展 ○矢吹マルシェ他、近隣町村に所在する施設における販売実習の実践				
				② 経営研修等の開催 ○先進地農家留学研修（1学年） ○優れた個別経営体及び農業法人等経営視察研修 ○経営シミュレーションの実践（卒業論文）				
		(6) 教職員の指導力の向上	教務管理 各経営学科 研修部	① 指導力向上に関する研修機会の確保 【実施回数】年2回 ○指導力向上に関する研修会の実施及び参加 ・関係する学校への見学等 ○発達障害に関する勉強会の開催 ・校外からの専門家による勉強会への参加				
				② 高校教育に関する実態把握 公開授業、学習活動等の発表会へ参加し、高校教育の実態を把握するとともに、大学校での学習指導に活かす。 ○公開授業への参加 ○課題研究発表会への参加				

令和6年度福島県農業総合センター農業短期大学校学校評価表

重点 目標	現状と課題	評価項目	主担当	具体的方策及び評価指標			
					経過・達成状況	評価	次年度の課題と改善方策
		(7) 地元大学等との連携推進	教務管理 各経営学科	① 福島大学食農学類との連携 福島県と食農学類との協定を踏まえ、相互の支援、交流等による連携を推進する。 ○大学教員による講義 ○卒業論文発表会での指導・講評 ○大学校運営会議で学校運営に係わる助言 ○学生の実習等の受入による支援 ○学生間の交流			
		(8) 学生指導の改善	学生指導委員会	① 学生指導における共通理解と指導 ○定期的な学生指導委員会の開催 ○学生指導に関する情報共有 ○給食委員会の開催			
				② 学生寮における生活指導と生活環境の改善 ○学生寮の巡回 ○学生寮の改善 ○自治会、寮自治会との意見交換の実施 ○新寮の使用方法等の検討			